令和８年 10 月 13 日

第３学年保護者様

丹波篠山市立丹南中学校
校　長　　足立　貞治

令和８年度全国学力･学習状況調査および丹波篠山市学力･生活状況調査の調査結果について

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申しあげます。平素は、本校教育活動に対しましてご理解とご協力をいただいておりますこと厚くお礼申しあげます。

さて、１学期に実施しました全国学力・学習状況調査および丹波篠山市学力・生活習慣状況調査の本校の分析結果をまとめましたので、お知らせします。

なお、本調査は、生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的としています。調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえつつ、保護者や地域の皆様の理解と協力のもとに、適切に連携を図りながら、一層の指導上の工夫改善に努めますので、学校の教育活動に対してご支援いただきますようお願いいたします。

●国語

【平均正答率（全国）に達している領域】
・言葉の特徴や使い方に関する事項
・話すこと、聞くこと・読むこと

【課題のある領域】
・書くこと

全体として、平均正答率は本校 64.0%（県 63.0% / 全国 63.9%）となっており、多くの項目で平均正答率（全国）を上回り、おおむね良好な状況です。
学力層の特徴としては、中間層（11 問正答：本校 18.3% / 全国 11.5%）の割合が大きい一方、高得点層（12 問以上正答）は本校 26.6%（全国 33.5%）にとどまっており、高得点層への引き上げが課題となっています。
基礎的な言語知識（文法・漢字・語句）は安定しており、平均正答率（全国）と同等以上の力があります。一方で、語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える問題や、条件を満たして記述する問題で正答率の低下や無解答率の高さが見られ、課題を残しています。
今後は、条件を確認して記述する学習や、正しく該当箇所を抜き出す学習を充実させるとともに、後半の問題での無解答を減らすため、時間配分を意識した問題演習を繰り返します。これにより、全体的な正答率の向上と無解答の減少を目指します。
具体的には、問題の演習を通じて大問ごとの目安時間を意識させ、後半まで解答しきれる時間配分を指導します。また、指定された条件に沿った文章を書く練習を取り入れて記述の質を高めるとともに、文章の精読を通じて必要な範囲を過不足なく抜き出す学習を徹底していきます。

●数学

【平均正答率（全国）に達している領域】
・数と式
・図形
・データの活用

【課題のある領域】
・関数

基礎の問題では平均正答率（全国）を 2.8 ポイント上回っています。また、活用の問題では一昨年は平均正答率（全国）を下回っており、昨年度は同等程度でしたが、今年度は平均正答率（全国）を３.４ポイント上回っています。基礎と活用をあわせた全体では平均正答率（全国）より、３ポイント上回っています。領域別に見ると、３つの項目で平均正答率（全国）を上回っており、「知識・技能」が定着していると考えられます。しかし、関数の領域では、平均正答率（全国）を０.１ポイント下回る結果になっています。また、問題形式においては、選択式、短答式、記述式の全形式で平均正答率（全国）を上回っています。特に記述式の問題では、全問題で平均正答率（全国）を上回っており、「思考・判断・表現」が定着していると考えることができます。

関数領域対策としては、数式と表、グラフの関係の理解を深めるために、考えを説明する活動を多く取り入れたりすることによって力の定着を図っていきます。

●英語【全般】
・IRT スコアの平均は、本校は 495 であった。（兵庫県 505、全国 499）
※IRT スコアとは・・・問題の難易度や正誤パターンを考慮して、生徒の英語力を同じ「共通のものさし」で評価する指標のこと

●英語【3技能　読むこと・聞くこと・書くこと】
【平均正答率（全国）に達している領域】
①店員と客の対話を聞き、客が注文したものを選択する問題（聞くこと）
②誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する問題（読むこと）
③与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題（書くこと）

【課題のある領域】
④中学校生活の思い出や、他者への提案、学校で普段行うことについて説明する文などの条件英作文問題（書くこと）

平均正答数を見ると、3.8 問／7 問（兵庫県 3.8 問、全国 3.7 問）と同程度の結果となりました。
問題の内容別に見ると、「どれが適切であるか」と選択する問題に関しては、聞くこと・書くことの領域で兵庫県、全国の値よりも上回っています。特に、上記②の問題では、８４．６%の正答率があり、兵庫県や全国よりも約１２%高い値です。（兵庫県７２、７%、全国７２、４%）英語の授業で、問題に粘り強く取り組むことで、英語の基礎基本の力が育まれていると推測されます。
一方、課題としては上記④のように、条件を適切に理解し、生徒自らの経験と絡めて英文を書く力です。（本校２０、５%、兵庫県２７、９%、全国２７、８%）対策としては、１学期より「英文を書くことへの抵抗を減らす」を目標に、定期的に「書くこと」の授業を展開しています。２学期は「抵抗を減らすから、的確な英単語や英語表現を運用できるようになる」を目標に、ALT に添削を依頼したり、よく使う表現を定着させられるように教材を工夫したりしながら、生徒自らで力をつけられる授業を展開していきます。

●英語【話すこと】
【平均正答率（全国）に達している領域】
・音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること

【課題のある領域】
・日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すこと

「話すこと」の平均正答数を見ると、0.6 問／2問（兵庫県、全国 0.7 問）と同程度の結果となりました。
上記の「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する」問題では、兵庫県・全国の平均正答率を１０%程度上回っています。しかしながら、「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すこと」に関しては、苦手意識のある生徒が多いと推測され、兵庫県・全国の平均正答率１０%程度下回る結果となっています。１学期の授業で、思考ツールを活用し、自分の考えをまとめる活動を取り入れています。２学期も継続して思考ツールなどを活用させるなど工夫した授業を展開し、「話す」経験をできるだけ多く取り入れていきます。

●生活習慣・学習習慣(i-check)について
生徒たちは「家族のささえ」や「生活習慣」といった基本的な生活基盤が安定しており、個人の「規範意識」についても全国平均を上回る高い水準を維持しています。「いじめのサイン」「社会参画」や「充実感と向上心」も全国平均を上回っており、「いじめを許さない姿勢」や、一人ひとりの内面的な自己肯定感、基本的なルールを守ろうとする意識はしっかりと育っていることがうかがえます。
一方で、２年生の時と比較すると「集団としての繋がり」に課題が生じています。２年生段階では強みであった「学級の規範意識」や「学級の絆」が低下し、「対話・話し合い」のスコアも全国平均を下回っています。これは、個人のモラルは高いものの、集団になるとそれが発揮されず、生徒同士の深い関わり合いや意見交換が少ない可能性があります。個人の規範意識を「学級の規範意識」へと昇華させるため、体育祭や文化祭などの学校行事、日常のグループ活動において、生徒同士が対話し協力する場を意図的に設けていきます。
また、「他者からの評価」や「感動体験」が減少し、受験を控えた重要な時期でありながら「学習意欲」や

「学習習慣」が昨年度よりもさらに全国平均を４ポイント以上も下回っている点も深刻な課題です。進路選択の不安等で失われつつある自信を取り戻すため、教師からの具体的な声かけに加え、生徒同士で互いの良さを認め合い、感謝を伝える仕組みなどを積極的に取り入れ、「他者からの評価」を高め、安心できる居場所を作っていきます。学習面では、「土日や祝日など、学校が休みの日は、１日どれくらいの時間、勉強をしますか。」の質問に、「まったくしない」と回答した生徒が約３割、「３０分以内」と回答した生徒が約２割おり、机に向かう習慣が定着しておらず、勉強に対する苦手意識やモチベーションの低下が関係しています。学習面では、まず各自で「１ 日３０分」など確実に達成できる小さな目標を設定し、日々の「できた」という小さな成功体験や感動体験を意図的に積み重ね、それを自発的な学習のモチベーションへと結びつけられるように促していきます。学校では、２学期から、朝学習の時間を設け、毎朝 10 分間、全員で集中して問題に取り組む静寂の時間を作ったり、お互いのノートの良いところを褒め合う、ペアワークで教え合う時間を授業内に設けたりしていきます。進路指導においては、現在の成績だけで判断せず「高校で何をしたいか」という未来を出発点にした指導を行い、高校見学と連動させ、「この学校に行きたい」という主体的な動機付けと、合格への見通しを個別に共有していきます。ご家庭では、スマホやゲームは、中３のこの時期に無理に取り上げると、隠れて使うなど関係が悪化しますので、「勉強中はリビングに置く」「22 時以降はリビングで充電する」など、本人が納得するルールを親子で話し合っていただき、「勉強しなさい」を「何時から始める？」に変え、結果ではなく机に向かった行動を褒める温かい見守りをお願いいたします。今後も、学校と家庭が手を取り合い、お子様の背中を押していければと思います。ご不安な点がございましたら、いつでも担任、学年団までご相談ください。